

防災工キスパートだより

東海豪雨で要請出動

9月11日から降り続いた秋雨前線豪雨(台風14号の影響)は、庄内川流域全域に300mmから500mmの降雨をもたらし、庄内川の基準点枇杷島でT.P9.46m(12日4:30)と計画高水位を28cm越す未曾有の大出水となり、各地で浸水被害が発生した。

また、新川流域の洪水は洗堰から越流した流水と重なり、名古屋市西区地先の新川左岸堤防が破堤し、庄内川右岸一帯の西区と西枇杷島町域に氾濫した。この大水害をもたらした雨は「東海豪雨」と名付けられた。

12日(火)11時30分頃、建設省庄内川工事事務所から中部地方防災工キスパート事務局(中部建設協会・本所)へ現地調査の依頼があり、12日午後と13日の2日間、延べ10名(5班)の防災工キスパートが出動した(既報:CKKNo.68/2000.10)。

事務局では、中部地方では初めての出動となつた経験を今後のエキスパート活動に活か

すため、出動いただいた方(9名)および地建から鷺見防災対策官、庄内川から川坂副所長にも出席をお願いし、10月13日に勉強会を開催しました。

以下に、主要な意見・反省点をご紹介し、エキスパートの皆さんに、今後の活動に備えていただけるよう報告します。

事務局も、この結果を活かし、必要な準備をしていくつもりです。

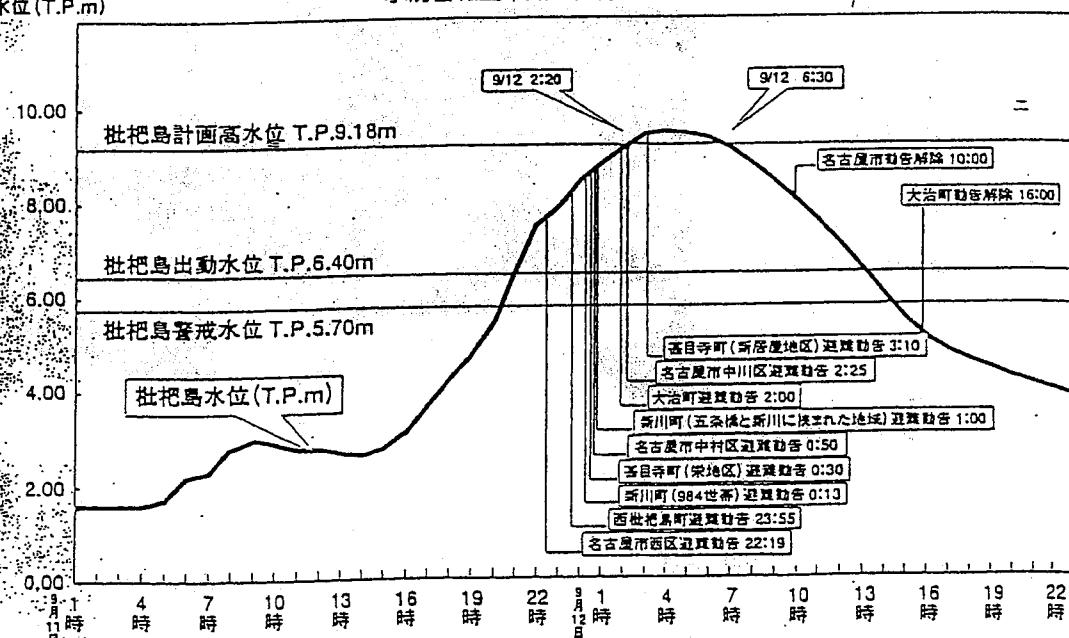
ボランティアは自己責任で!!

○要請を受け集合まで

- ・風水害に対する準備不足(心構えも)。地震時と同様に自主的モニターを想定していた。
- ・交通手段は、最悪の場合を考えて行動すること。
- ・交通事情の情報が十分ないと出動できるか不安だった。
- ・公衆電話は繋がったが、携帯電話はなかなか繋がらなかつたので、自主的に事務局へ連

水位(T.P.m)

水防警報基準点・枇杷島の出水状況



上図は「庄内川・新川出水状況」第2報

建設省中部地方建設局/庄内川工事事務所/愛知県建設部河川課発行から転載

発刊:中部地方防災工キスパート事務局 (社)中部建設協会 企画部

名古屋市中区丸の内三丁目5番10号 住友商事丸の内ビル8F

Tel: 052-962-2227 Fax: 052-962-9083

絡を入れることも必要。

・経験していない河川（勤務なし）の調査は、不安だった。

・効率の良い集合場所（事務所・出張所は対応が難しい）を考える必要がある。今回の集合場所は、やむを得なかつたと思うが、協会本所だったので非効率に感じた。



12日の出動者・準備完了

○現地へ出動してみて

・現地は大変な状況だった、自己の責任範囲で行動するしかない。

・現地調査は、1チーム5名位必要。特に、安全の確保、トラブル等の対応上などのため。

・堤防は危険（自動車などの一般交通）、川表は歩ける状況ではなかった。

・川裏からだと距離標など位置が判らない。

・除草が済んでいないと見難い。

○体験してみて

・事前準備も必要だが、いつでも対応できるようにするのがエキスパートだ。

・詳しい資料があれば、より良い。

・組織的な安全対策の必要性を感じた。

・風水害を想定したチームによる研修（学習）的なものも必要だ。

・必要な装備は自分で調達（持参）するのが基本（登録証・腕章・リュック・着替え・雨具・靴・ヘルメット・記録具・カメラ・飲料水・食料・電話・小銭など）で、支援をあてにしない。

・食料などコンビニをあてにしても、売り切れの恐れがある。準備できない場合でも、出

発時に最小限の用意（あめ・チョコ・水）をしていく必要がある。

・被災直後のタクシー利用は、あてにならない。

・後方支援チーム（情報連絡・交通手段・食料調達など）が必要。

・事務局（特に支所）へも応援が欲しい。

・工事事務所は、エキスパートからの情報を対策支部で受信するので、出張所でなく事務所へ通報してほしい。

○組織の課題として

また、今回の経験を受け、エキスパート活動の基本的なスタンスに関わる課題として、次のような意見も出された。

・風水害による出動頻度が圧倒的に多い全国的な実状から、風水害による自主的出動をルール化する必要がある。

・ボランティアの範囲（委託業務との区分）を明らかにしておく必要がある。

以上

出動されたエキスパートの皆さん、事故等もなく無事調査を実施していただき、大変ご苦労さまでした。

庄内川工事事務所からも「期待どおりの成果が得られ、非常に役に立った」との感謝の言葉がありましたことを報告いたします。



勉強会風景

<編集後記>

いよいよ21世紀、新世紀は心の時代、ボランティアが活躍する時代です。今後は、この「だより」でいろいろな情報を発信・交換することにしましたので、ご意見・ご要望は事務局まで。皆様のいっそうのご健勝とご活躍をお祈りいたします。（Y. K）